

追求する読み手の育成をめざして

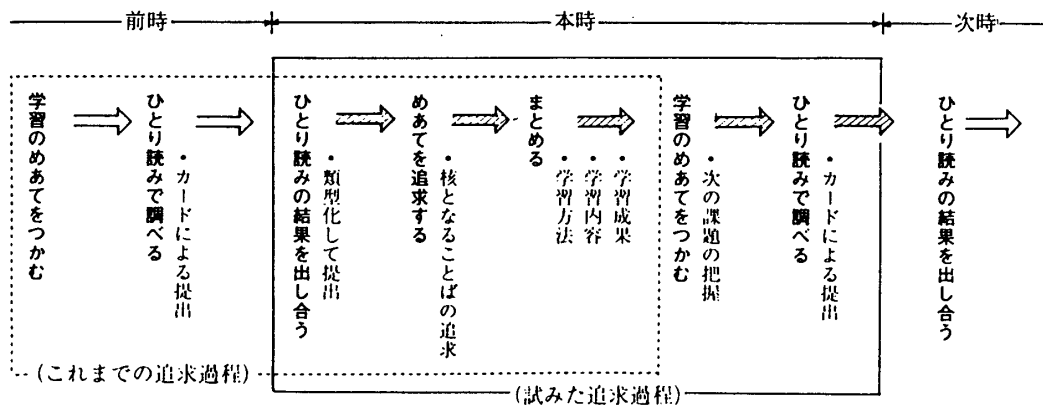
— ひとり読みと読みの類型化を位置づけた追求過程への取り組み —

檀 上 健 二

1. 研究の視点

追求する読み手を育てるポイントは、読み手に、いかにして自分の読みへのこだわりを持たせるかということにかかっている。その手だてを、研究仮説の所でも述べたように、ひとり読みの活動と、読みの類型化の二点に求めているが、この二つの活動を効果的に位置づけた追求過程についても、もっと目を向ける必要がある。

これまでの指導では、「つかむ・調べる・出し合う・まとめる」という追求過程をとっていた。(下図破線部分)しかし、この流れでは、一時間の授業の中で児童一人ひとりの読みを的確に把握し、その読みを生かした授業をつくることは不可能なことであった。そこで、一つの試みとして、追求過程の中で、課題をつかむ段階と、ひとり読みを通して調べ自分の考えを持つ段階は、前時の指導の中で行ってはどうかと考えてみた。つまり、課題についての自分の考えを書くところまで一時間を終え、次の時間からは「読みを出し合う・追求する・学習をまとめる・新たな課題をつかむ・自分の読みをつくる」という一つの流れをつくり出すのである。(下図実線部分)この追求過程を取り入れることで指導者は、児童のひとり読みの結果をあらかじめつかむことができる。したがって、児童の思考によりゆさぶりをかける授業づくりが可能となる。また、児童にとっては、自分のつくり出した読みを次の時間までにあたためることができるので、追求する場では意欲を持って取り組むことができるのではないかと考えた。



2. 実践の概要

(1) 単元について

本単元に採用した教材「山へ行く牛」は、鼻木入れをした子牛をおいて、母牛を山へ連れていった鳥子が、母牛の涙を見てはげしく後悔し、悲しむ姿を感動的にえがいている。鳥子は、鼻木入れの儀式や、山へ行く母牛との別れという大きな二つの出来事を経験し、大人の世界を知り、耐える。そして、牛と一体化したどうしようもない熱い叫びを発する。この変革していく鳥子の姿にふれさせ、その心情の動きを読みとらせることは、六年生も後半に近づいている、この期の児童にとって、大きな意義を持つものと思われる。

また、この作品は、鳥子の行動に対して多様な読み方がなされる教材でもある。したがって、児童一人ひとりにじっくり読みひたらせ、その読みの結果を書かせることにより、友達との読みとを比較させることが可能である。以上のことから、本研究を進めていく上で適切な教材であると判断した。

(2) 指導のねらい

- ◎ 戦争という状況での鳥子と子牛の交流を読みとることにより、鳥子の心情を読み味わい、豊かな心情を養う。
- 文章の表現に則して人物の心情を読みとることができるようにする。
 - 描写や叙述の優れた箇所に気づき、抜き書きしたりすることができるようにする。
 - 感動したことや自分の考えたことをまとめて書くことができるようにする。

(3) 単元の指導計画 全12時間

次	追 求 過 程	指 導 内 容 (◎は本紀要の中で取りあげた指導場面)	時 間
1	つ か む ↓ (疑 問) ↓	—教材と対面し、大まかな内容をつかむ— ◦ 題名読みと通読をし、初発の感想を持つ。 ◦ 初発の感想について話し合い、各自の読み深めてみたい疑問を決める。	— 4 — (1) (1)
2	(個の課題) ↓ (共通課題) ↓	◦ 各自の疑問についてひとり読みに取り組み、みんなと学習してみたい課題を決定する。 ◎ 個の課題を共通課題へと高め、各場面ごとの学習のめあてを決定する。	(1) (1)
3	調 べ る 出 し 合 う ↓	—共通課題に対してのひとり読みの読みを行い、それをもとに課題を追求する— ◦ 登場人物や時代背景についての課題を追求し、まとめる。 ◦ 鼻木入れの場面での鳥子の心情についての課題を追求し、まとめる。 ◦ 戦争と鳥子についての課題を追求し、まとめる。 ◦ 母牛と子牛の別れを見ている鳥子の心情についての課題を追求しまとめる。 ◎ 母牛の涙を見てはげしく悔む鳥子の心情についての課題を追求しまとめる。	— 6 — (1) (1) (1) (1) (1)
4	ま と め る	—学習をふり返り学習のまとめに取り組む— ◦ 今までの学習の記録をもとに、まとめの感想文を書く。 ◦ 自分の学習のあしあとや個人の発展的な課題を学習新聞にまとめる。	— 2 — (1) (1)

(4) 指導の実際

① 学習のめあてづくり

一読後、心に残ったこと、疑問に思ったことをカード（5 cm×12cm）に書いて提出させた。教師は、それらを教科書のページにしたがって整理し、一枚のプリントにまとめた。このプリントをもとに初発の感想について話し合った。話し合いの中で解決できるものはその場で解決し、自分も友だちと同じように疑問に思うものについて印をつけさせておいた。こうして、個人の疑問を学級の中へ位置づけ共有化をはかった。そして、この疑問の中から自分の取り組んでみたい疑問を選び出させ、ひとり読みをさせた。この活動の後、ひとり読みでは解決できなかった疑問や友達と読み深めてみたい疑問について提出させた。次項表1は、各自がひとり読みで取り組んだ疑問○印と読み深めてみたいと思った疑問●印とを一覧表にまとめて児童にかえたものである。

この一覧表をもとに、この単元でのめあて作りに取り組んだ。指導の概略を紹介する。

- ㊦ 各自の読み深めてみたい課題をまとめた一覧表を配布する。
- ㊧ 一覧表をもとに、みんなの意識が集中している中心課題をとらえる。
- ㊨ 中心課題を読むための視点を知り、誰に目を向けて読んでいくのかとらえる。
- ㊩ 中心課題を解決するための各場面ごとの共通課題を設定する。
- ㊪ それぞれの課題どうしの関連をべん図で表し、学習のめあてを設定する。

このようにして設定した課題をまとめたものが図2である。そして、これらの課題を追求していくことが、この学習をすすめていく上でのめあてとなることを確認した。

② 学習のめあて追求の実際

—第3次 5時分—

ここでは、本単元の中核となる課題「島子の流す涙には、どのような気持ちがこめられているか」についての追求過程を紹介してみたい。この課題に対して十分な読み深めがなされることによって、はじめて、島子が最後に牛にな

きかって「マア—」と叫ぶ感動的な場面を心情豊かに読みとることができると考えたからである。

一つかむ・調べるの段階 前時の取り組み—

前時の学習の後半で課題をつかませ、この課題に対してひとり読みをさせた。その読みの結果はカード(5cm×12cm)に書かせて提出させ、分類してみた。その結果、児童の読みを大きく五つの読みに類型化することができ、次の読みを、それぞれの読みの代表として児童の前に出すことにした。その際、追求する話し合いが組織しやすいようにだれから出された読みであるかを記入しておいた。

—類型化された読み(児童から出された原文のまま)—

- ㊦ 春になるまで元気でね。さみしいけどまっているからね。子牛といっしょに……。 T子
- ㊧ 母牛がとても悲しんでいる姿がかわいそうになり、島子も泣きたくなり母牛を連れて帰りたいとくやんだ。 K君
- ㊨ 父さんのことばかり考えていて、自分と父さんの同じような立場になっている母牛と子牛のことはまるっきり考えていなかったというくやむ気持ち。 H君
- ㊩ とうげにつくまで母牛の気持ちを考えず引いたり押したりしたことを悪く思い、母牛がこれほど自分のことを思っているのに悪いことをしたとくやんでいる。 S君
- ㊪ 子供と離れるのはそんなにつらいのか。父さんもうちと別れる時はつらかったらあ。あ。 U子

この読みの結果を分析してみると、島子の流す涙を、㊦は単なる別れの涙 ㊧は母牛への同情の涙 ㊨は母牛のことを考えていなかった自分をくやむ涙 ㊩は、母牛の悲しみを理解せず追いたてるようにして子牛を連れてきた自分の行為への反省の涙 ㊪は、母牛の別れを通して、はじめて親のつらい気持ちを理解できたことへの涙 ととらえている。したがってここでは、㊨、㊩、㊪の読みへと児童を近づけるような読みを組織しなければならない。

一出し合う段階 本時の取り組み—

表1 読み深めてみたいことの一覧表

山へ行く牛 読みたいこと 一覧表	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
1 野本 謙	○	○								○																
2 佐藤 誠																										
3 島田 友樹																										
4 大久保 人																										
5 小田 豊人	○	●																								
6 藤本 知也																										
7 山本 知人																										
8 佐藤 誠																										
9 野本 謙																										
10 佐藤 誠																										
11 山本 知人																										
12 佐藤 誠																										
13 野本 謙	○	●																								
14 佐藤 誠																										
15 山本 知人																										
16 佐藤 誠																										
17 野本 謙																										
18 佐藤 誠																										
19 山本 知人																										
20 佐藤 誠																										
21 野本 謙																										
22 佐藤 誠																										
23 山本 知人																										
24 佐藤 誠																										
25 野本 謙																										
26 佐藤 誠																										
27 山本 知人																										
28 佐藤 誠																										
29 野本 謙																										
30 佐藤 誠																										
31 山本 知人																										
32 佐藤 誠																										
33 野本 謙																										
34 佐藤 誠																										
35 山本 知人																										
36 佐藤 誠																										
37 野本 謙																										

図2 山へ行く牛の課題

山へ行く牛学習課題
いろいろな別れに目を向けよう！
氏名

21 いろいろな別れに目を向けようか

島子の流す涙について

6 島子はとうとう母牛を山へ連れていく
8 母牛は島子の涙を見て、わがわが泣く
10 島子と母牛の別れは、島子にとって
12 島子と母牛の別れは、島子にとって
14 島子と母牛の別れは、島子にとって
16 島子と母牛の別れは、島子にとって
18 島子と母牛の別れは、島子にとって
20 島子と母牛の別れは、島子にとって
22 島子と母牛の別れは、島子にとって
24 島子と母牛の別れは、島子にとって

- a. 本時のめあての確認
 - 本時のめあてを書いたカードを黒板に張付け、簡単に本時のめあてを確認する。
- b. 友だちのひとり読みの結果をつかみ、自分の読みを位置づける。
 - 前時で出された各自の読みを類型化したプリントを配布し、課題に対しての読みの実態をとらえさせ、自分の読みがどの読みに近いか印をつけさせる。
- c. めあて追求のために本文を読み、自分の考えの根拠となることばをみつけさせ、自分の考えをノートにまとめさせる。
 - 三分間程度時間を与え、自分の考えを書き残させる。
- d. 五つの読みについてそれぞれの読みの根拠となることばを發表させ、めあての追求に取り組む。

—授業記録—

T それぞれの読みについて自分の考えを發表しましょう。㊦の考えの人から。

—グループごとに立たせ、同じ意見の者はすわらせていく。以下同様—

P₁ わたしは、P77の「ええか、むりするなや」ということばがあるので、このような読みをしました。

P₂ つけ加えて。鳥子はP78で「返事の代わりにさようなら」と言ったところで、この母牛にがんばってくれという気持ちをこめて言ったと思うので、この意見に賛成です。

T ㊦の人の意見を聞いてみましょう。

P₃ P78のところで「なにげなく」ということばがあります。鳥子はまさか牛が泣くとは思っていなかったのだと思います。それでかわいそうになって泣いたのだと思います。

P₄ P78のところで「牛はまっすぐに自分を見ていたい」というところから、牛は鳥子のことを思ってくれたので鳥子はかわいそうになって泣いたのだと思います。

T 母牛はまっすぐ鳥子を見つめながら泣いていたのですね。大事なところですよ。㊦の意見の人はどうですか。

P₅ P79に「はげしくくやんだ」と書いてあります。そこでは、すごく悔んでいると思います。そして口びるをかみしめています。これは、自分を反省しているのだと思います。

P₆ 母牛と子牛が別れる場面では、鳥子はうちを見てみいなといって母牛を連れてきています。自分のほうがつらいんだという考えをしていたけど、ここで牛の涙を見て、おまえもつらいきかという気持ちで、それをわかってやれなかったことを悔んでいると思います。

P₇ P79に「はげしくくやんだ」と書いてあります。そこでは、すごく悔んでいると思います。そして口びるをかみしめています。これは、自分を反省しているのだと思います。

T ㊦の意見の人はどうですか。ここにはひとり読みを調べてみると6人の人がいたよ。

P₈ ことばはわからないけど、母牛を無理やりつれてきたので鳥子は悪かったなあと思ってくやんでいると思います。

P₉ ぼくは、「今になって」ということばがあるので、それまでは母牛のことを考えていなかったと思います。

T ㊦の意見の人はどうですか。

P₁₀ P74のところで母牛は子牛の声が聞きとれない時は動こうとしなかったとあるので子どものことを心配して別れることがつらいと思ったと思います。

P₁₁ ぼくの意見はだいたいかわったんだけど、P79のところで、牛の泣くのを無理やり連れてきたのを後悔するつもりで泣いたんだと思います。

T 君の意見はどちらかというと㊦の読みに近いね。そのほかにかわった人は？

P₁₂ わたしの意見は、㊦と㊦の二つが混じったものになっています。はげしく悔んだ、牛はまっ

すぐ見ていたというところで、牛はかってに連れてこられたことを泣いているかもしれないし、子牛との別れを悲しんでいるのかもしれないからそう考えました。

T 今、五つの意見について、それぞれの根拠となることばを出しながらそのわけを話してもらいました。手がかりとしたことばは「今になって、はげしくくやんだ、くちびるをかみしめてもかみしめても涙がしたたり落ちる」などですね。鳥子の涙の出方は普通ではないね。何についてははげしく悔んでいるのがポイントになります。それでは、これらのことばを手がかりとし鳥子の流す涙にはどのような気持ちがこもっているかグループで話し合ってみましょう。

——小集団で自由討議に入る。3分間——

P₁₃ 私たちの班では、㊸と㊹が混じっていると考えました。それは、「今になって」ということばがあるので、今になる前のことをくやんでいると考えたからです。

P₁₄ ぼくたちの班では、㊸と㊹が混じっているのではないかと話し合いました。それは、子牛と母牛の別れを通して、お父さんはあんなに悲しかったのかとわかったのだと思います。

P₁₅ ㊸と㊹を考えました。「何しよんのよ」と鳥子は母牛を追いたてている。それに、連れてくる時の頭の中にあったのは「どんぶり飯を食べることだけが楽しみ」という自分がはずかしかったのだと思います。

——まとめる段階——

f 話し合ったことをもとに自分の第一次の読みがどうか変わったかをノートに書き残させる。その際、学習のまとめとして、獲得した学習方法などについても記入させる。

g 児童の読みの変容を挙手によってとらえる。

○㊸—0人 ○㊹—0人 ○㊸—30人 ○㊹—20人 ○㊹—5人 (重複回答を含む)

——つかむ、調べる段階——

h 次の課題「マーッ」には鳥子のどのような気持ちがこめられているかという課題についてひとり読みをさせ、自分のカードに書いて提出させる。

i 指導者は、児童から出されたカードに目を通し、次の課題に対しての児童の読みの実態を把握する。また、カードを分類することにより読みの類型化をはかる。そして、次の授業をどう組織するか、検討に取り組む。—以下略—

3. 考察

(1) 課題追求への深まり

前述した指導により、児童の読みがどのように深まったかを、前時のひとり読みの結果・授業中の読みの類型化への挙手による反応、学習のまとめとしてノートに記述された個々の読みの結果から調べてみた。表3は、それぞれの類型化された読みの人数がどのように変化したかを表している。これによると、浅い読みの類型化である㊸や㊹の人数が減少し、深い読みの類型である㊸・㊹・㊹の読みへと変わっている。また、授業場面でのP₁₂～P₁₅の発言でもわかるように、二つの読みを合わせて新しい読みをつくり出そうとしている姿や、各自の読みの反応を挙手で調査した結果が重複した反応を示してい

表3 児童の読みの変容

読みの類型		㊸	㊹	㊸	㊹	㊹	不明	計
指導の流れ								
前時	ひとり読み (カードの分類)	5 (13%)	7 (18%)	12 (32%)	3 (8%)	8 (21%)	3 (8%)	38 (100%)
本時の活動	ひとり読みの 類型化の提示 (ノート記述から)	3 (8%)	4 (11)	19 (50)	6 (16)	5 (13)	1 (2)	38 (100%)
	話し合い活動	類型化された読みへの追求活動						
	学習のまとめ (ノート記述から)	0	1 (2)	22 (58)	12 (32)	3 (8%)	0	38 (100%)
	挙手による確認 (授業の中で)	0	1 (2)	30 (79)	20 (53)	5 (13)	0	51 (147%)
	増 減	-5	-6	+18	+17	-3		

上人数
()割合

ることは、児童が課題への追求を通して積極的に読み深めた結果と考えられる。

では、児童の読みが具体的にどのように変わったかを類型別に紹介してみたい。

—㉗の読みから㉘の読みへ— T子の場合

初 春になるまで元気でね。さみしいけれど待っているからね。子牛といっしょに。

終 おけちゃんはこのように私のことを思ってくれていたのに私は父さんのことや親子どんぶりのことばかり考えていた。ほんとうにごめんね。

—㉙の読みから㉚の読みへ— H子の場合

初 子どもと別れるのはそんなにつらかったのか、お父さんもうちと別れるときつらかったらうなあ。

終 最初は子どもと離れるのがそんなにつらかったのかという意見でしたが、みんなの意見を聞いて母牛に悪いことをしたなあという意見にかわりました。「くやむ」ということばから、自分がおしたり引いたりして無理やり連れてきて悪かったなあと思っています。

—㉛の読みから㉜の読みへ— K君の場合

初 父さんのことばかり考えていたのは悪かった。なんで母牛の悲しみをわかってやれなかったのだろう。

終 ぼくの読みはかわらない。それまでの島子の行動をたどると、親子どんぶりのことやお父さんのことばかり考え、母牛の涙を見てはじめて「つきとばされたようによめいた」というふうに書いてある。だから島子はそれまで、母牛の悲しみを理解していない。だからはげしく悔んだと思う。

ここでは、三人の具体例を紹介したが、いずれも文中のことばに着目して自分の読みを深めていった様子を読み取ることができる。

(2) 学習後の児童の意識調査から

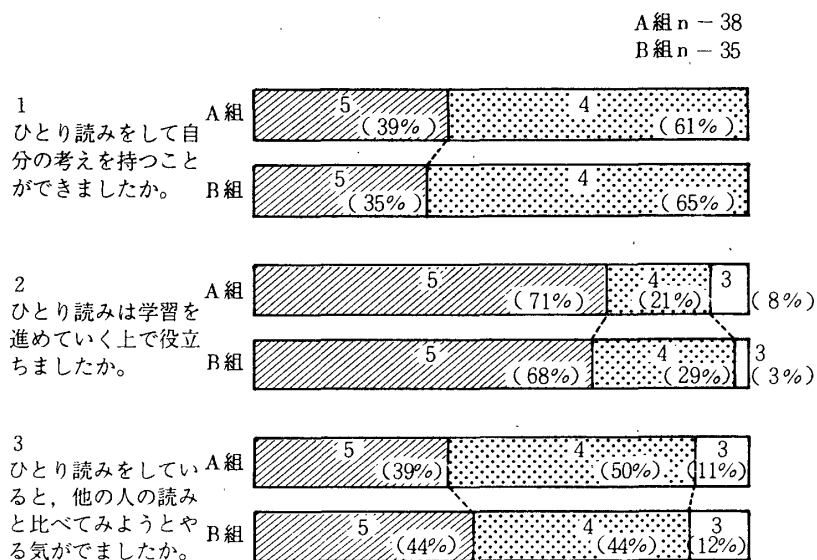
この学習終了後、ここで取り入れた追求過程について、①ひとり読み ②読みの類型化 ③追求過程をずらしたことの三点に視点をあてて、授業を実施した二クラスを対象としてアンケート調査を実施した。記入にあたっては5段階で評価させた。5に近づくほどプラスイメージを表し、1に近づくほどマイナスイメージを表している。

① ひとり読みについて

表4-1からもわかるようにひとり読みをして、全員が自分の考えを持つことができたとプラスイメージの回答を寄せている。

また、その活動がみんなと学習を進めていく上で役立ったと回答している者は、両クラスとも90%以上にのぼっている。その理由としては、自分の考えが持てる。他の人の考えと比べることができる、いろいろな考えを出し合うことができるなどをあげている。ひとり読みしたことが学習

表4-1 学習を終えての意識調査の結果
—ひとり読みについて—



への意欲につながったとプラスのイメージの回答をしている者は両クラスともほぼ90%にのぼり、その中でも特にそう感じている者は39%と44%にのぼっている。このように考えるとひとり読みの活動が読みの過程へ果たす役割は大きなものがあると考えられる。

表4-2 学習を終えての意識調査の結果
—類型化・追求過程について—

② 読みの類型化について

ひとり読みしたものを類型化して提示することについてA組では80%の者が、B組では90%の者がその意義を認めている。その理由として、自分だけでは分からなかった読みが出てくるのでいろいろ比べられる。友だちの意見がわかるなどをあげている。また、類型化された読みを通して意欲を持って取り組むことができたかについては、Aクラスでは、ほぼ80%、Bクラスでは90%のものがプラスのイメージの回答をしているが、5の段階の者が他の項目に比べて少ないことは、今後、読みの類型化の提示のあり方について検討すべき余地が残っていることを示している。

③ 追求過程への工夫について

ひとり読みを前時の後半でさせておくことが次の学習を進めていく上で役立つ活動であったと回答している者は両クラスとも90%以上にのぼっている。その理由として次の時間にやることははっきりする、予習になる、すぐ自分の意見を言うことができるなどをあげている。また、5段階のプラスイメージを与えている者がA組で71%、B組で62%いたことは、児童にとってこの追求過程が読んでいくうえで受け入れやすく有効なものであったと思われる。

④ 学習を終えて児童の感想文

本単元の学習を終えて感想を児童は学習新聞（次項参照）の中で次のように述べている。

◦ぼくの見解とほかの人の見解がちがっていたので、どうしてだろうと読んでいった。読んでいくにつれほかの人の見解に近くなったりしたところがあったので、今と前とでは、ずいぶん読みがかわっていったような気がする。
—読みの変容について—

◦はじめは、母牛と別れる時、鳥子ははじめからとても悲しかったと読んでいたが、今は、鳥子は、はじめはあまり悲しくなかったと読んでいた。友達の意見は、本をよりいっそう読み深められるのだなあと思った。
—類型化した読みの効果—

◦はじめのひとり読みは、一つのことばからしか意見（考え）がでなかったけど、みんなと学習していくうちに、たくさんのことばから一つの意見をつくり出せるようになった。ぼくは、ことばというものがとても大切だということを、この学習を終えて、改めてわかった。
—ことばの追求について—

◦わたし一人ではわからなかった課題も、いつものように「教科書の言葉」に注目して話し合

